

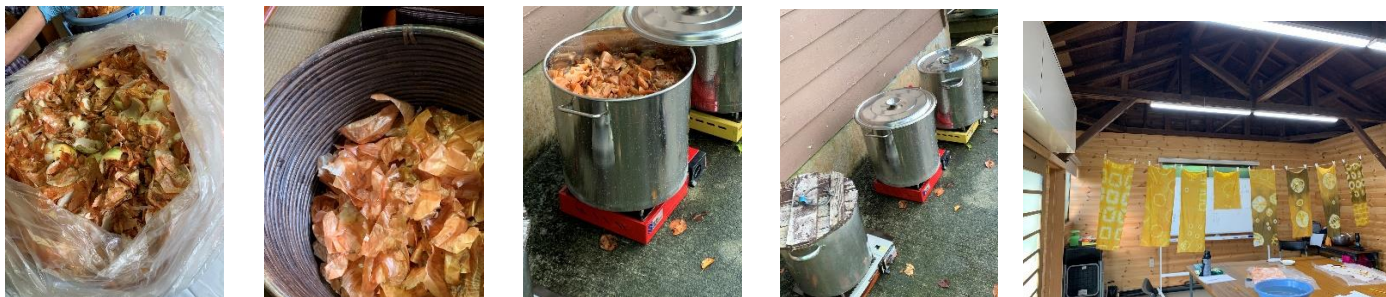
2024年 草木染(玉ねぎの皮)教室報告

1. 開催日時：2024年9月15日（日） 9:30~11:30
2. 場所：枚岡公園事務所うら 森の工作室
3. 参加者：7人（大人6人、子ども1人）
4. スタッフ：8人（黒羽：講師、端、石田、岩元、柴山、三木、渡辺、森口）

【準備】本番9月15日（日）に先立ち

9月3日 石田さん宅にて玉ねぎの皮むきを行いました。スタッフ6名（石田、堺井、岩元、三木、渡辺、森口）。

9月13日、森の工作室にて準備とスタッフの勉強会を行いました。玉ねぎの皮を煮て染め液を100%煮だし、染めの手順を学びました。



大量の玉ねぎの皮から染めに使う茶色い所だけを取り分ける。鍋を火にかけ煮だす。 13日にできたスタッフの作品。

【本番】9月15日（日）森の工作室で、まずスタッフ打ち合わせ。そして参加者の方々が来られて、自己紹介から始まりました。

講師から草木染めの説明と柄（がら）付けの説明をしてもらいました。そして柄付け、あらかじめ水に浸して軽く絞ったさらし布にビー玉を輪ゴムでくくりつけて模様を作ったり、畳んださらしを割り箸ではさんで輪ゴムでしばり、染め液が入って行かない所を作ります。どのような模様になるか予想がつきにくいところが面白さのようです。



染色の工程は 一回目の染色→水洗い→媒染（ミョウバン）→水洗い→二回目の染色→水洗い→媒染（ミョウバンか鉄媒染か）→水洗い→出来上がり となります。

ビー玉や割り箸をくくりつけたさらし布をぐらぐら煮立った染め液にひたします。布の間に空気の泡が入らないよう泡を追い出し、染め液が布の隅々まで行きわたるように気を付けながら沈めていきます。熱いので軍手をした上にゴム手袋をはめて行います。20分浸したのち、軽く水洗いして、ミョウバンの媒染液に浸します（15分）。媒染液に浸すと、黄色の染め色がサッと鮮やかになり時間が経つとともに黄色が濃くなります。洗って2回目の染色の工程に入ります。2回目の染色をしている間に、講師から媒染の説明を聞きます。



いろいろな金属イオンで媒染ができるそうですが有害物質汚染をさけて、ミョウバン（アルミ）媒染と鉄媒染だけにしているそうです。

二回目の媒染はミョウバンか鉄かのどちらかを選びます。布の一部を鉄媒染にすることも可能です。鉄媒染液に浸すと布がそこだけ黒っぽく染まります。一部だけ鉄に浸したつもりがじわじわと液が浸透したりして思いがけない模様になります。



輪ゴムを解いてビー玉や割り箸をはずし、布を広げて完成です。



ミョウバン媒染だけの作品、ミョウバンと鉄媒染の両方をした作品、それぞれ世界で一つだけの作品が出来上がりました。最後に、草木染め作品について洗濯するときの注意、濡れているときの色移りを防ぐ注意を聞きました。

【参加者感想】

- ・面白かったです。
- ・ビー玉でこんな模様が作れるんや、って面白かったです。
- ・こんなにきれいになるなんてよかったです。
- ・思い通りにできたかな、とてもよかったです。いろんなアレンジできます。
- ・こんな風にできました。水玉を入れて真ん中をたたんで入れたかった。鉄（媒染）をもう少し入れたかった。
- ・ポイントを洗濯ばさみで入れました。鉄も入れました。
- ・鉄媒染はまだです。楽しかったです。